

薬学研究科

1.博士前期課程 医療栄養学専攻

(理念)

栄養管理の高度化を推進し、専門性の高い能力と広い視野を有するグローバルな人材の育成を目指す。

(教育方針)

本学の建学の精神である「学問による人間形成」を希求するうえで、自らを超える視点を持つ知性の醸成と、学ぶために必要な姿勢と価値を見出すことが建学の精神の根幹を成している。本研究科の博士前期課程 医療栄養学専攻では、建学の精神に立って薬学的な視点で薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置する学際分野（Pharma-Nutrition 分野）をグローバルで独立した分野として確立し、この分野において国民一人一人が主観的な生活と生命の質を高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを直接的または間接的に支援して国民ひいては国際社会の健康増進に寄与することができる薬学、栄養学、医学の素養を身につけた高度専門職業人を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究科博士前期課程 医療栄養学専攻では、医療栄養分野と食毒性分野において、以下の学力や意欲を有する人を受入れます。

- 1.薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置する Pharma-Nutrition 分野を、グローバルな視点で独立した分野として発展させたいと思う意欲のある者
- 2.栄養学と医療、特に薬学との関係に興味と問題意識を持ち、国際レベルで専門性の高い問題解決能力を身につけたいと思う意欲のある者
- 3.自然科学における基本的な知識*）を有しており、国際レベルの研究推進能力を身につけたいと思う意欲のある者（*有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学など）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士前期課程 医療栄養学専攻では、それぞれの専門分野において、グローバルな視野を有し高い専門性を身につけた高度専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

- 1.総合医療栄養学演習、病院・保険薬局実習を含む各分野の特論を選択・必修科目として、グローバルな視野に立った学識の涵養を図り、ジェネラリストとして自らの研究領域を俯瞰できる能力を養成します。
- 2.特論演習では、それぞれが専門とする分野においてスペシャリストとして国際レベルの高度な知識と技能の修得を目指します。

3.主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価を目的とした定期的なディスカッションを通して課題研究を遂行し、最終的に修士論文として完成させることにより、国際レベルの高度な研究能力を養成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程 医療栄養学専攻のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下に掲げる国際レベルの能力を身につけていると判断され、修士（医療栄養学）の学位が授与されます。

- 1.最近の生命科学の進展の成果を基礎として、食、薬、毒の生体作用を、物質によって引き起こされるものとして同列に議論することができる能力
- 2.①食品と薬の相互作用を念頭に置き食毒性を考慮した高度な栄養管理、栄養教育の実践、②食品を生理学的、薬力学的、毒性学的に評価し、これらがヒト恒常性に与える影響を分子のレベルで理解する、のいずれかができる能力
- 3.医療栄養学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、国民ひいては国際社会の健康増進にどのような帰結をもたらすかを地域に注目しながらかつグローバルな視点で評価し議論できる能力

2.博士前期課程 薬科学専攻

（理念）

薬学分野の学問的基盤に立脚した、専門性の高い能力と広い視野を有するグローバルな研究者、高度専門職業人を養成することを目指す。

（教育方針）

本学の建学の精神である「学問による人間形成」を希求するうえで、自らを超える視点を持つ知性の醸成と、学ぶために必要な姿勢と価値を見出すことが建学の精神の根幹を成している。本研究科の博士前期課程薬科学専攻では、建学の精神に立って薬学を学問的基盤として、とくに社会のグローバル化に対応する安全性を考慮した医薬品、化粧品、機能性食品、生活化学品の分野において国民一人一人が主観的な生活と生命の質を高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを直接的または間接的に支援して国民ひいては国際社会の健康増進に寄与することができる薬科学の素養を身につけた高度専門職業人を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究科博士前期課程薬科学専攻では、化粧品機能分野、食品機能分野と医薬品安全性分野、において、以下の学力や意欲を有する人を受入れます。

- 1.薬学分野のみならず薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置する Pharma-Nutrition 分野にも立脚したグローバルな視点で薬科学の学問領域を発展させたいと思う意欲のある者

2.薬学的視点に立って安全性を考慮した医薬品、化粧品、機能性食品、生活化学品の開発、製造、研究、情報解析に関する国際レベルで専門性の高い問題解決能力を身につけたいと思う意欲のある者

3.自然科学における基本的な知識*）を有しており、国際レベルの研究推進能力を身につけたいと思う意欲のある者（*有機化学、物理化学、生化学、臨床化学、生理学、栄養学、薬理学など）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士前期課程薬科学専攻では、それぞれの専門分野において、グローバルな視野を有し高い専門性を身につけた高度専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1.先端薬科学特論、総合薬科学演習を含む各分野の特論・演習を選択・必修科目として、グローバルな視野に立った学識の涵養を図り、ジェネラリストとして自らの研究領域を俯瞰できる能力を養成します。

2.特論演習では、それぞれが専門とする分野においてスペシャリストとして国際レベルの高度な知識と技能の修得を目指します。

3.主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価を目的とした定期的なディスカッションを通して課題研究を遂行し、最終的に修士論文として完成させることにより国際レベルの高度な研究能力を養成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程薬科学専攻のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下に掲げる国際レベルの能力を身につけていると判断され、修士（薬科学）の学位が授与されます。

1.医薬品、化粧品成分、食品成分、生活化学用品による生体作用を、最新の生命科学の進展の成果に基づいて議論することができる能力

2.①安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、②安全性を考慮した化粧品の開発・研究・情報提供、③安全性を考慮した機能性食品の開発・研究・情報提供、④安全性を考慮した生活化学用品の開発・研究・情報提供、のいずれかができる能力

3.薬科学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、国民ひいては国際社会の健康増進にどのような帰結をもたらすかをグローバルな視点で評価し議論できる能力

3.博士課程 薬学専攻

（教育方針）

本学の建学の精神である「学問による人間形成」を希求するうえで、自らを超える視点を持

つ知性の醸成と、学ぶために必要な姿勢と価値を見出すことが建学の精神の根幹を成している。本研究科の博士課程薬学専攻では、建学の精神に立って、社会のグローバル化に則した医療人教育として学んだ薬学分野の学問的基盤をさらに充実させて、保健・医療の高度化を推進し、国民ひいては国際社会の一人一人が主観的な生活と生命の質を高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを直接的または間接的に支援できる専門性の極めて高い能力と豊かな学識を有する高度医療職業人を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究科博士課程薬学専攻では、薬探索、生体防御および医療の各領域において、以下の学力や意欲を有する人を受入れます。

- 1.薬学の専門知識を、グローバルな視点で個々人の主観的な生活と生命の質を高く維持することに活用しようとする強い意欲のある者
- 2.先進の探求的研究に広く興味を持ち、国際レベルで専門性の高い問題解決能力を身につける意欲と医療に貢献するための新たな研究を発掘しようとする意志のある者
- 3.有機化学、物理化学、生化学、生理学および薬理学の確かな学力を有する者

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士課程薬学専攻では、それぞれの専門分野において、生命科学の全体像を学んだ、グローバルな視野を有する医療薬学分野の豊かな学識と極めて高度の専門性を有する専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定しています。

- 1.先端生命科学特論、先端医療薬学特論、レギュラトリーサイエンス特論およびドライリサーチ特論を必修科目とし、グローバルな視野に立った豊かな学識の涵養を図り、ジェネラリストとして自らの研究領域を俯瞰できる能力を養成します。
- 2.特論演習では、自立した研究能力を有するスペシャリストを目指すために、国際レベルで各領域がそれぞれが専門とする教育・研究を対象として知識と技能の修得を目指します。
- 3.チームによる集団指導体制を入学時から導入し、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて策定された研究方針を、副研究指導教員も加えた定期的なディスカッションを通して形成的評価を繰り返します。最終的に博士論文として完成させることにより国際レベルの極めて高度な研究能力を養成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士課程薬学専攻のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された者は、以下に掲げる国際レベルの能力を身につけていると判断され、博士（薬学）の学位が授与されます。

- 1.最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・

制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボノミクス）、及び化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力

2.①安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、②生体障害因子から健康を衛るための研究・情報提供、③医薬関連情報からエビデンスを引き出すための研究・情報提供、のいずれかができる能力

3.薬学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、医療にどのような帰結をもたらすかを地域に注目しながらかつグローバルな視点で評価し議論できる能力

4.博士後期課程 薬科学専攻

（教育方針）

本学の建学の精神である「学問による人間形成」を希求するうえで、自らを超える視点を持つ知性の醸成と、学ぶために必要な姿勢と価値を見出すことが建学の精神の根幹を成している。本研究科の博士後期課程では、建学の精神に立って社会のグローバル化に則して博士前期課程が掲げる目的をさらに向上させるため、薬学分野の高度な学問的基盤を身につけ、おもに薬科学分野において国民ひいては国際社会の一人一人が主観的な生活と生命の質を高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを直接的または間接的に支援できる極めて高度の専門性と豊かな学識を有した研究者、専門職業人を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本研究科博士後期課程薬科学専攻では、医薬品・化粧品、食品機能、食毒性の各分野において、以下の学力や意欲を有する人を受入れます。

- 1.自然科学における確かな知識と国際レベルで高度な研究推進能力を有する者
- 2.薬学の学問的深化を迫及する中で、医療との関係に興味と問題意識を持ち、統合的かつ国際レベルで専門性の高い問題解決能力を身につけたいと思う意欲のある者
- 3.薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置する **Pharma-Nutrition** 分野（薬科学分野）を薬学的にグローバルな視点で発展させたいと思う意欲のある者

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士後期課程薬科学専攻では、それぞれの専門分野において、グローバルな視野を有する極めて高度の専門性と豊かな学識を有する研究者、専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラムポリシーを設定しています。

- 1.高度先端薬科学特論、レギュラトリーサイエンス特論、ドライリサーチ特論を必修科目とし、グローバルな視野に立った学識の涵養を図り、ジェネラリストとして自らの研究領域を俯瞰できる能力を養成します。
- 2.特論演習では、各分野でそれぞれが専門とする教育・研究を対象としてスペシャリスト

として国際レベルの高度な知識と技能の修得を目指します。

3.主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形式的な評価に耐えうる定期的なディスカッションを通して課題研究を遂行し、最終的に博士論文として完成させることにより国際レベルの極めて高度な研究能力を養成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された者は、以下に掲げる国際レベルの能力を身につけていると判断され、博士（薬科学）の学位が授与されます。

1.最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボノミクス）、及び化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力

2.①安全性を考慮した医薬品・化粧品の開発・研究・情報提供、②安全性を考慮した機能食品の開発・研究・製造・情報提供、③食品、食品の組合せ、食品と医薬品の組合せを生理学的、薬動学的、毒性学的に評価する研究・情報提供、のいずれかができる能力

3.薬科学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、国民の健康増進にどのような帰結をもたらすかをグローバルな視点で評価し議論できる能力